

目指す学校像	元気いっぱい 笑顔いっぱい 感動いっぱい 春野っ子
--------	---------------------------

重点目標	1 学ぶ楽しさや喜びを味わい、互いに磨き合うことができる学校 2 安全に配慮し、美しく整えられた環境づくりがなされている学校 3 家庭・地域との連携を深め、地域と共に生きる学校
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価		年 度 評 価		学校運営協議会による評価				
年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和5年2月13日				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均と比べ概ねやや下回っている結果である。 ○市の学習状況調査において、学習に対する関心・意欲・態度に関する肯定的な回答をした児童の割合は、市平均と比べ算数は高いが、国語、社会、理科ではやや低い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、特に国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」及び算数の「データの活用」等、主に「知識・技能」に関する設問について、結果の二極化傾向が見られる。 ○日頃の学習の様子から、調べたことを整理してまとめ、プレゼンテーションしたりすることに進んで取り組む児童が多い。	・学びの自律化に向けた情報端末の活用、授業改善 ・学ぶ楽しさを実感できる「春野小わくわくタイム」の創出	①国語、算数について、スタディサプリ、ドリルパークなどの学習への取組状況を基に学習相談を実施して、児童が目標をもって学習できるようにする。 ②全国学力、学習状況調査について、児童が自己採点を行い、その結果を情報端末上のシートに入力することで、児童が自らの学習状況を把握できるようにする。	①全児童に対して学期に1回行うアンケートの中で、人間関係や交友関係の悩みだけでなく、学習への取組状況や学習相談を行い、 ②児童が自己採点の結果を基に、自らの学習状況をつかみ、目標を立て、達成に向けて行動できるようになったか。	①学期に1回、全児童に学校生活に関するアンケートを行うことができた。学習内容の他に、友達関係や家庭生活など、児童の抱える様々な困りごとを把握する手立てとすることができた。 ②自己採点を行ったことで、自分の間違えやすいところや、課題を把握することができ、学習意欲の喚起につながった。	B	①国語、算数については、スタディサプリやドリルパークなどをタブレットPCを活用して、朝学習や授業等で、日常的に活用していく。 ②市学習状況調査と、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学期始めと学期終わりに個人の目標について振り返る時間を設定する。	・全児童へのアンケートについては、聞き方の工夫も重要である。聞き方に配慮することで、児童が困りごとや悩みをもっと言いやすくなるのではないかな。 ・学力の向上については、低位の児童への細かな支援が大切であり、注力してほしい。 ・学習意欲が長時間、継続できない児童が増えているように感じるので、学習意欲を高める工夫や指導が必要である。
2	(現状) ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした児童の割合は、全国、市平均をやや上回っている。 ○昨年度、施設・設備の不具合等が主な原因と考えられる児童の割合が1件、教室から校庭に向かうドア開閉に伴うけがであった。救急搬送を伴うものと、交通事故は0件であった。 (課題) ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が児童の心身に与える影響が大きいことから、今後も、児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制充実 ・安全な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①情報端末を活用して児童向けアンケートや面談等の記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会で、ICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を緩やかに把握、分析し、適切なタイミングで組織的に支援、相談を行う。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、関連する項目の肯定的な回答の割合が90%以上となったか。 ②学校自己評価に係る保護者アンケート「学校では子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の肯定的な回答の割合が70%以上となったか。	①学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、タブレットPCを活用した学習を行っている割合が、91.7%となった。 ②学校自己評価に係る保護者アンケート「学校では子どもの悩みやトラブル等について適切に対応している」の肯定的な評価が、74.5%となった。	B	①タブレットを活用した児童アンケートを行うとともに、個別面談も定期的に行い、児童一人ひとりの学習や生活の状況の把握を継続していく。 ②教育相談部会や生徒指導部会の時間をさらに拡充し、児童理解をより丁寧に行い、支援につなげていく。	・データについては、昨年の結果との比較という視点も重要である。今年度から始まった取組なので、次年度はぜひ比較と考察を行ってほしい。 ・児童の悩みやトラブル等については、特に高学年児童については、児童自身が、専門職に気軽に相談できる体制があるとよい。保護者向けの講演会などもよいのではないかな。
3	(現状) ○昨年度、本校学校運営協議会を立ち上げ、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら課題を見出し、協働して解決していく児童を地域全体で育てていくことを共有した。 (課題) ○今年度は昨年度に学校運営協議会で共有した目指す児童の姿を、家庭、地域、企業などに広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、児童に育てたい力についてさらに熟議し、その実現に向けた方策を定め、継続的な行動に向けた一歩を踏み出す。	・目指す児童の姿を地域全体で共有するためのICT活用、教育活動の公開 ・児童の自律と望ましい人間関係の構築につながる、継続的な取組に向けた異学年交流、集団活動の充実	①本校HP内に、30周年記念行事に関するページを作成し、地域理解を深め、地域を愛する心情を児童に育む。 ②学校行事等について、学校に関わる人々がホームページで閲覧できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。	①学校自己評価に係るアンケートで、地域理解についての肯定的な回答の割合が80%以上となったか。 ②学校自己評価に係るアンケートで、「児童の成長に対する関心が高まった」と回答する割合が80%以上となったか。	①学校自己評価に係る児童アンケートで、「地域の人は自分たちを見守り支えてくれている」と回答した割合が88.5%となった。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートで、「子どもに思いやりの心が育っている」と回答した割合が90.3%となった。	B	①学校から発信するお手紙類の電子化を推進し、保護者・地域・児童がいつでも、どこでも本校へアクセスできるようにし、利便性を高めることで、学校理解を促す。 ②ホームページのコンテンツの拡充を推進し、見たくなるようなHPへと改善する。	・学校からの情報発信については、HPの電子化や内容の充実も大切だが、紙媒体には紙媒体の良さや効果もあるので、両方を生かしていけるとよい。特に高齢者等には、紙媒体は有効なのではないかな。 ・保護者や地域に対しては、新たなコンテンツやバナーを作成するなど、周知方法の工夫も考えられる。
4	(現状) ○新たな学びのスタイルの中心となる、情報端末をはじめとしたICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となり研修を重ねてきた。 (課題) ○ICTの活用について、教員間で取組の差が見られる。誰もが学び続けることができる職場環境づくりが求められる。	・一人ひとりが力を発揮し、学校に集う誰もが居心地のよい「チーム春野」のTFN(チームワーク、フットワーク、ネットワーク)の実施	①年間を通して、エバンジェリストを中心に、ICTだより・動画を発行し、全ての教員の指導力を向上させる。 ②一人ひとりの教員が年間を通して取り組む授業改善の目標を設定し、目標達成に向けた授業を年1回以上と、研究授業・協議会をブロック学年で1回ずつ実施する。	①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②全ての教員が、自らの目標に向けて授業改善策に取り組み、児童の実態調査・アンケート結果において、80%以上の教員が肯定的な評価80%以上を達成することができたか。	①校内研修の取組で、指導者を招聘した研究授業を年3回、一人1回の研究授業を行うことができた。また、学校自己評価に係る教員アンケートでは、タブレットPCを活用した学習を91.7%の教員が行っていると回答した。 ②学校自己評価に係る児童アンケートで、PCを活用して情報を集めて整理したり、分析したり、まとめたりする学習を行っている割合が83.0%となった。	B	①今年度、実践した校内研修から以下の点を重点に継続して実践していく。 ・「単元のはじめに今の状況を振り返る」 ・「体験したり、試したりする」 ・「学習の見通しをもつ」 ・「何ができるようになりたいか(単元のゴール)を考える」「一人一授業」を通して、児童に真の学力を定着させていく。 ②タブレットPCの効果的な活用場面について研究を行い、学習活動での活用を図る。	・タブレットPCの活用については、格差があるように感じる。児童格差は家庭格差でもあり、そのための支援や手立ては難しいとは思いますが、今後考えていく必要がある。 ・タブレットPCのデータ分析やデータ活用を今後研究し、児童への指導に生かしてほしい。